



福島県南相馬市立原町第一中学校

原一中だより

第10号 令和5年2月24日(金)発行

令和4年度 重点目標

互いに助け合い 高め合える生徒

令和4年度 学校評価について

昨年12月に行った「令和4年度原町第一中学校 学校評価」に関するアンケートでは、保護者の皆様にご協力いただき誠にありがとうございました。現在、この結果をもとに、来年度の教育課程を作成しております。今後ともご協力の程、よろしくお願いいたします。

領域	実践事項	主な評価項目 ○4段階評価(1・2・3・4) 【○3・4の割合 ≥85%程度】 【●3・4の割合 ≤75%程度】	今年度の実践内容・課題	次年度への改善点	学校関係者評価(A・B・C) ご意見・要望
学習指導	確かな学力の育成	<p>○「分かった・できた」と実感できる授業である。 (生徒86%、教職員100%)</p> <p>○生徒の考えが大切にされ、分からない生徒に具体的なアドバイスをしている。 (生徒89%、教職員94%)</p> <p>●「総合的な学習の時間」では、地域の人々と関わる機会がある。 (保護者75%、生徒83%、教職員94%)</p> <p>●自分なりの家庭学習の方法や内容が身についている。 (生徒78%、保護者57%、教職員95%)</p>	<p>○協働的な学びを基盤とした学び合い支え合う学級・学校づくりに努めた。</p> <p>○一人一台端末を活用し、興味・関心を高める授業を実践した。</p> <p>○生徒一人一人の学びの履歴(ポートフォリオ)をもとに個に応じた支援に努めた。</p> <p>●コロナ禍でも、生徒の学びを止めない方策を考え実施している。</p> <p>●家庭学習の方法や内容について、生徒の取組の好事例を共有させたり、掲示物で紹介したりすることで、改善傾向が見えつつある。</p>	<p>・学び合いが話し合いで終わってしまわないよう、指導者が明確な視点を与えた上での学び合いや高め合いが行われるように指導する。</p> <p>・一人一台端末のより効果的な活用に向けて、校内校外研修を充実する。情報モラルについても並行して指導していく。</p> <p>・クラスごとに複数週にわたって実施する分散開催や、オンライン開催など、「できる方法」を考え、引き続き実践していく。</p> <p>・現職教育のテーマのひとつとして引き続き取り組む。</p>	<p>評価 A</p> <p>○生徒への指導や支援が適切である様子が、よい評価結果に表れている。</p> <p>○現状を踏まえて、「学びを止めない」ことへの頑張りが伝わってくる。今後も「できる方法」を模索していくことは必要なのだろうが、現時点では最善を尽くしてくれていると思う。</p> <p>○「生きる力」がモラルに支えられたものとなるよう、学力の定着に努めてほしい。</p> <p>○教科の特性に応じた家庭学習の在り方の指導と併せて、それらの妨げとなる、ゲーム・スマホ等の利用指導が大切。</p> <p>○学習意欲があっても、それを成績向上につなげる効率的な学習方法が見えていない様子。</p> <p>○生徒が毎年入れ替わっていく中で、評価の内容・実態を適正に把握している。</p>
道徳・特別活動	豊かな人間性の育成 自己実現を図ろうとする態度の育成	<p>○学校では、思いやりや社会のルール等について学ぶ機会が多くある。 (生徒94%、教職員95%)</p> <p>○学校の諸行事に積極的に参加している。 (生徒88%、教職員100%)</p> <p>*道徳の授業で学んだことを、自分の生活等に役立てようとしている。 (保護者76%、教職員81%)</p>	<p>○35時間22項目の道徳科の授業を、計画的に完全実施するよう実践している。</p> <p>○生徒が主体的に諸行事の運営を行い、達成感や成就感を味わわせられるよう、必要な支援を行った。</p>	<p>・考え議論する道徳の授業の実践に向けて、研修を通して教員の指導力の向上に引き続き努める。</p> <p>・安易に道徳的実践を求めめるのではなく、生徒の道徳性の高まりを多面的多角的に捉えられるよう、すべての教育活動を通じた道徳教育を心がける。</p>	<p>評価 A</p> <p>○生徒自らが計画的・主体的に実践できるよう指導しているものと感じられる。</p> <p>○いじめ防止の観点からも、道徳教育には引き続き力を入れてほしい。他人ごとではなく自分ごととして。</p> <p>○集団の中で自己実現が可能になるよう、個性の伸長を図り、活躍の場の設定を。</p> <p>○授業参観した様子からは、発言力も討論力も以前の原一中生よりもあると感じた。</p>
生徒指導・健康安全指導	きめ細かな生徒指導の充実 健やかな身体の育成	<p>○服装や態度が整い、あいさつや正しい言葉遣いができる。 (生徒95%、保護者90%、教職員95%)</p> <p>○教職員は、生徒の良いことは良いと認め、ほめている。 (生徒95%、保護者86%、教職員95%)</p> <p>○学校では、生命の尊さや性に関することについて学ぶ機会がある。 (生徒92%、教職員85%、保護者85%)</p> <p>*教職員は、悩みごとや相談に親身に応じている。 (保護者82%)</p>	<p>○基本的な生活習慣が身につくように、学校、保護者が連携して指導を行った。また、教育相談やチャンス相談、いじめアンケート、SCとの連携を図った。</p> <p>*生徒を「説得」するのではなく、生徒が「納得」して、自らの言動を改善していけるような指導を、チーム体制で推進していく。</p>	<p>・いじめアンケート結果の早期対応、組織的な対応に心がける。</p> <p>・不登校対策として、個別の教育支援計画を活用し、合理的配慮も検討しながら組織的な支援を行う。</p> <p>・生徒の自己指導力の伸長を図る視点で指導・支援するとともに、その方針を保護者にも理解してもらえよう連携を図る。</p>	<p>評価 A</p> <p>○生徒に強いるのではなく、学校と保護者が連携しながら納得感のある指導に力を入れている様子が伝わる。</p> <p>○厳しさも優しさも大事であり、生徒指導はケースバイケース。正解はないと思う。</p> <p>○引き続き生徒に寄り添い、「気づき」を大切にされた指導を進めてほしい。</p> <p>○原一中生としての服装・態度・自らあいさつする様子など素晴らしい。</p> <p>○将来を担う生徒達のために、今後もよろしくお願いいたします。</p>

	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14	設問15	設問16	設問17	設問18	設問19	設問20	設問21	設問22	設問23	設問24			
令和4年度 学校評価	高め合いのよさを認め合ったり、学び合ったり、	お互いのよさを認め合ったり、学び合ったり、	その日のうちに保護者あてに渡されるプリント類は、	ムページなどを、読んだり見たりしている。	学校だよりや学年・学級通信、学校のホームページなど、	学校の施設・設備は、生徒が生活や学習しやすいように整備されている。	家庭学習をする習慣が身につく、効果的に勉強している。	自分なりの家庭学習の方法や内容が身についている。	教室や廊下の掲示等は、学習したことを振り返ることができるように工夫されている。	授業では、生徒の考えが大切にされ、具体的なアドバイスを受けて課題を解決する場面がある。	授業では、「わかった・できた」と実感することが多くある。	成績には、授業態度や意欲、技能や表現力なども重視されていることを知っている。	学校では、思いやりや社会のルール、人権について学ぶ機会が多くある。	道徳の授業で学んだことを、自分の生活や生き方について役立てようとしている。	学校の体験活動やボランティア活動は、自分の社会性や人間性の成長に役立っている。	学校や学級は、温かい雰囲気の中で生徒一人一人が大切にされている。	学級活動や生徒会活動、学校で催される諸行事には、積極的に参加している。	生命の尊厳や性に関することについて、道徳や保健体育、学級活動など様々な場面で学ぶ機会がある。	もって積極的に活動している。	は、登下校するときや自転車を利用するときには、交通安全ルールを守っている。	と「総合的な学習の時間」では、地域の人々とかわる機会がある。	意味や尊厳、将来の生き方について考えている。	あいさつや正しい言葉遣いができている。	めたりして、良いことは良いと、認めたりほめたりして、悪いことは悪いと、きちんと指導してくれる。	先生方は、悪いことは悪いと、きちんと指導してくれる。	先生方は、悪いことは悪いと、きちんと指導してくれる。	先生方は、悪いことは悪いと、きちんと指導してくれる。
生徒	96%	69%	60%	91%	77%	78%	83%	89%	86%	89%	94%	90%	91%	88%	88%	92%	88%	97%	83%	89%	95%	95%	96%	89%			
保護者	92%	85%	86%	88%	64%	57%	77%	71%	75%	85%	83%	76%	84%	82%	87%	85%	83%	84%	75%	82%	90%	86%	83%	82%			
教職員	95%	95%	100%	100%	100%	95%	85%	94%	100%	94%	95%	81%	94%	100%	100%	94%	100%	95%	94%	89%	95%	95%	95%	95%			

